

アルミ缶 リサイクル ニュース

January

1

2026

Vol. 174

CAN
to
CAN



アルミ缶リサイクル協会

Japan Aluminum Can Recycling Association

東京都豊島区南大塚1-2-12 日個連会館6階
Tel.03-6228-7764 Fax.03-6228-7769 〒170-0005
<https://www.alumi-can.or.jp>

2026年弘津理事長年頭所感

旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しくお願いいたします。2026年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は日本各地で発生した群発地震や火災、災害級と言われる過去最高の猛暑、東北を中心に多発したクマ被害など一年を通じて気が休まることはありませんでした。一方、戦争などの世界情勢からエネルギー費は高騰し、円安や異常気象により米を含む諸々の物価の高止まりが続いており、経済動向は相変わらず先行きが不安定な状況です。このような状況下、アルミ缶のリサイクル活動に携わる皆様におかれましてはさまざまな工夫をなされ、堅実な活動の推進にご尽力頂きましたことを心から感謝申し上げます。当協会としては、皆様の活動支援に引き続き鋭意取り組む所存でございますのでよろしくお願い致します。

環境面では、国内資源循環の強化とカーボンニュートラルに向けた取り組みが引き続き重要課題となります。ご存知の通りアルミ新地金は全量を輸入に依存していますが、新地金の生産には大量のエネルギーを要し、LCAの見地からは新地金の使用を再生地金の使用へと転換することが省エネルギーになるとともに、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブへの大きな推進力となります。日本国内における徹底した資源の分別回収と再資源化が上記二つの重要課題への対処に繋がります。当協会としてもこの二つの課題解決に少しでも貢献できるよう、使用済みアルミ缶の再生利用のメリットを解り易くお伝えする資料を整え、リサイクル率を安定維持するとともにCAN to CAN率(水平リサイクル率)の向上を図り国内での再生利用量の拡大啓発に努める所存です。

さて昨年のアルミ缶市場は、春先に販売価格の値上げに向けた特需があったものの、夏の猛暑にも関わらず清涼飲料、ビール類とも需要が一昨年よりも少ない傾向にありました。ライフスタイルの変化に伴う低アルコール飲料・ノンアルコール飲料やビール類新商品の奮闘もあり年末に向けての消費拡大を期待していましたが、業界の一部企業が

外部からのサイバー攻撃を受け一時的に供給が滞る事象が発生する等の影響もあり、年間需要量は昨年よりもやや減少すると見込まれます。

当協会は容器包装の8素材で構成する「3R推進団体連絡会」のメンバーであり、5年毎に自主行動計画をたてて活動しています。当協会の3R推進活動は、2025年までにリデュース率6.0%(2004年度比)の達成とリサイクル率92%以上の維持を目標にしていますが、2024年度の実績はリデュース率が7.2%、リサイクル率が99.8%となり、それぞれ2025年度目標を達成しました。今年は自主行動計画2025の最終年であるとともに、自主行動計画2030の策定を行う年となります。前述の結果に安堵することなく引き続き更なる向上を図り、より高い目標を設定しその達成のため関係各位への支援・啓発に努めます。またCAN to CAN率につきましても、2024年度実績の75.7%を今一步高めるよう、関係業界へ啓発を続けます。加えて一昨年に制定しましたアルミカップリサイクルマークの浸透を図るなど容器包装におけるアルミ化の推進にも努めます。

アルミ缶はその優れたリサイクル性を持つ容器として早くから皆様に認知され、再生利用に向けた回収活動は早期に始まっております。その結果、集団回収団体(学校、自治会、老人会、子供会、福祉施設など)、消費者、省庁、自治体、資源回収事業者のご協力もあり、高いリサイクル率が維持されています。関係各位には改めて深く感謝の意を表しますとともに、長年に亘るアルミ缶回収活動へのご協力に対し厚く御礼申し上げます。当協会と致しましても回収協力者表彰制度や展示会、出前教育などによりアルミ缶のリサイクル活動の啓発に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。



アルミ缶リサイクル協会
理事長 弘津 宗光

3R推進団体連絡会 自主行動計画2025のフォローアップ報告

12月19日、当協会を含む容器包装の3Rを推進する八団体が纏めた「自主行動計画2025」の2024年度フォローアップの記者発表を経団連会館にて行いました。

この自主行動計画は、容器包装の3R、特にリデュース、リサイクルの推進を軸に、事業者が自主的に取り組んでいるものです。

リデュースは、軽量化・薄肉化など資源の有効活用とごみの減量化を目指す取り組みで、2024年度は8素材中全ての素材が2025年度目標を上回って進捗しています。

リサイクルでは6素材(ガラスびん、PETボトル、プラスチック容器包装、スチール缶、アルミ缶、段ボール)が2025

年度目標を達成するなどの成果がみられました。

また、容器包装3R推進フォーラム、セミナーの実施や地域での3R市民リーダー育成などを継続実施しました。

普及・啓発としては、関係各主体との連携・協働への取り組みを深化させました。当協会からは3R実績報告と共にアルミ缶の自主的集団回収活動が活発に行われたことを報告しました。

URL:<https://www.3r-suishin.jp/?cat=19>



2025年一般回収協力者表彰



全国各地で表彰式

当協会は、アルミ缶の回収活動を行っている団体の中から、優秀な活動実績をあげられた方々を毎年表彰しています。本年度は全国で一般 73 団体、小・中学校 46 校（受賞者の詳細は前号 Vol.173 に掲載しています。ホームページを参照ください。）、10 月中旬から 12 月にかけて全国で表彰式が開催されました。一般の部の関東地区受賞者様につきましては、11月21日に千代田区竹橋の如水会館に於いて合同表彰式が開催され、同時に本年度優秀回収拠点の表彰も実施しました。

アルミ缶一般回収協力者合同表彰式【関東地区】及びアルミ缶優秀回収拠点表彰

本年度の合同表彰式は、関東地区の受賞団体14団体様をお招きして開催致しました。表彰に先立ち理事長の弘津より「アルミ缶の回収の半分近くは本日お集まりいただいた皆様が努力して自主的に集めていただいた成果であり、資源循環に貢献していただいている皆様にあらためて御礼申し上げます。」と挨拶がありました。

来賓を代表して、経済産業省 製造産業局 金属課 金属技術室長 松本 暢之様より「カーボンニュートラルやサー

キュラーエコノミー、更にはSDGs 持続可能な目標の達成に向けた実践に向けてこの取り組みを進めていただくことを期待したいと思います。」とご挨拶を頂きました。

乾杯に先立ち、一般社団法人 日本アルミニウム協会 専務理事 能登 靖 様より「皆様に集めていただいたアルミ缶を無駄にせずリサイクルして製品として還元していきたい。」とご挨拶を頂きました。



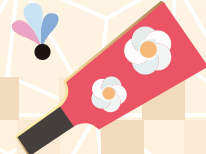
理事長 弘津 宗光



経済産業省 金属課 金属技術室長
松本 暢之 様



日本アルミニウム協会 専務理事
能登 靖 様



受賞者を代表してお二方から受賞の喜びの言葉を頂きました。



篠塚町内会
東 朝子 様

東様より「この賞を持ち帰って町内会に報告してアルミ缶の分別をもっと強く啓発しようと考えております。」とのお言葉を頂きました。



株式会社 伸和産業
太田 康仁 様

太田様より「人口減少が進んでおり町内会や小中学校で回収活動を止めようかとの声も聞こえておりますが、この表彰を糧として地域と一緒にアルミ缶のリサイクルを進めていきます。」とのお言葉を頂きました。



アルミ缶優秀回収拠点表彰

1983年に「優秀回収拠点制度」を設け、当協会認定の回収拠点様の中から当協会の活動に特にご尽力、ご協力下さった拠点様を表彰しています。本年度は新規受賞として有限会社 本島商店（東京都台東区）、株式会社山治紙業（静岡県磐田市）の2社が、再選として2019年度に受賞した株式会社 伸和産業（青森県弘前市）、同じく2019年度に受賞した株式会社 蒲田嵩商店（和歌山県田辺市）の2拠点が選出されました。

優秀回収拠点受賞（敬称略）



有限会社 本島商店



株式会社 山治紙業



株式会社 伸和産業



株式会社 蒲田嵩商店



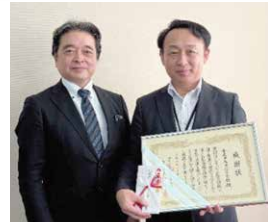
2025年「アルミ缶小・中学校回収協力者表彰」表彰風景 (敬称略:次号に続く)



深浦町立深浦中学校



青森市立造道小学校



青森市立浪打小学校



弘前市立相馬小学校



弘前市立松原小学校



鱒ヶ沢町立西海小学校



金ヶ崎町立永岡小学校



湯沢市立湯沢南中学校



八千代町立川西小学校



小山市立乙女中学校

エコプロ2025出展

エコプロ2025(主催(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社)は12月10日~12日に東京ビッグサイトで開催されました。来場者は、3日間で約60,000人の入場があり、当協会ブースへは約2,100人となりました。

当協会のブースでは「みんなで続けよう アルミ缶リサイクル」をテーマにパネルとリサイクルの各工程のサンプル展示を行いました。来場された方にはクイズによるアルミ缶のリサイクルの現状やリサイクルの効果について理解を深めていただきました。

ご来場いただいた皆様誠に有難うございました。



エコプロ 2025 ブース風景



協会からのお願い

● タブは缶から外さずいっしょにリサイクル

アルミ缶のタブは環境保護のため、缶フタから離れないようにしてあります。タブはタブだけで回収するのではなく、缶に付けた状態で丸ごと回収してください。無理にタブを取るとケガをする場合もあり危険です。

● ボトル缶のキャップの取扱い

飲料用アルミボトル缶のキャップは、アルミ製です。キャップも貴重なアルミ資源です。キャップ・本体とも軽く水洗いした後、中の水分をよく切ったうえ、キャップを軽く締めて回収してください。

※自治体によってはキャップだけを別に回収しているケースがありますので、お住いの自治体の要領に従ってください。

● アルミ缶にタバコを入れないでください

アルミ缶にタバコの吸殻を入れると、リサイクルの妨げになるだけでなく、火災の原因になる可能性があります。



編集後記

- 旧年中は色々とお世話になり誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い致します。まだまだ寒い日が続きますが、皆さまご自愛ください。

アルミ缶リサイクルニュース第174号

発行日 2026年1月23日

発行人 稲林 芳人

編集人 中島 計

発行所 アルミ缶リサイクル協会